

# 内容摘要

一〇

- (一) 要中の要は念佛三昧……………一
- (二) 枝に離れぬ柿の如く……………二
- (三) みすがたはおじひのあらはれ……………四
- (四) 稱ふる眞正面に彌陀現に在す……………五
- (五) 心中に活ける本尊をおすへ申す……………八
- (六) 稻草は日々死の方に枯れ稻實は日々生の方に實る……………一〇
- (七) 大みはからひは子に知れず……………二
- (八) 信あれど愛なくば鳴らぬ鐘の如し……………三
- (九) 息心一致の聲……………六
- (十) 生死に即して大涅槃……………七

- (十一) 宇宙全體が彌陀たるの實感……………二八
- (十二) 實驗むつかしき事に非ず……………一九
- (十三) 聲に心が入つて聲と心と共に佛……………二〇
- (十四) 靈的電話の交換手……………二一
- (十五) 光明土は近づけり……………二一
- (十六) 傳道……………二三
- (十七) 他事は兎もあれ角もあれ……………二四
- (十八) 天分に應じて使命を果す……………二五
- (十九) 華燭……………二五
- (二十) 熱さも有難し涼風も有難し……………二六
- (二十一) 路……………二七
- (二十二) 舊佛敎……………二七

(二十三)	月 刊……………	六
(二十四)	法主様に非ず光明主義の一兵士なり……………	六
(二十五)	歳を重ねて垢を増す……………	九
(二十六)	御慈悲の面影は常に彷彿として……………	〇
(二十七)	靈性開發こそ人生の一大事……………	〇
(二十八)	捨てずも奴隸となる勿れ……………	三
(二十九)	一切萬物は光明の顯現……………	三
(三十)	迭相吞噬……………	六
(三十一)	郡内一の財を有して郡内一の苦悶の日暮……………	四
(三十二)	何についても如來の御蔭と云ふことを専ら念じてミオヤくと云ふうちに愛情が暖になつてくる……………	四
(三十三)	一日一度でも家族的に讃禮しあとは常念につとむ……………	四
(三十四)	貴方の心が無くなりて残る所は如來様ばかりになる……………	七

- (三十五) 心の奥の奥底に常に親様を秘め置きて…………… 四八
- (三十六) 病床の處また三昧道場…………… 四九
- (三十七) 身には惱があらうとも心は大悲の懷に…………… 五〇
- (三十八) 日よりも明に如來は空中に在して…………… 五一
- (三十九) すべてを親様に御まかせ申して…………… 五二
- (四十) ミオヤが何となく戀しく慕はしく…………… 五三
- (四十一) 靈的活路…………… 五七
- (四十二) 現に尊く嚴臨し給ふ神聖なる尊容…………… 五八
- (四十三) 如來様の御試験は日常の爲す業の中に在り…………… 五九
- (四十四) 眞の幸福は光明の照し返る家庭…………… 六一
- (四十五) 身を養ひ下さるゝは靈を實らしむる聖意…………… 六二
- (四十六) 大ミオヤの命と潔く果さん心より爲す業は此世の作業が…………… 六四  
其儘佛道修業…………… 六四

- (四十七) 此御縁を空く過しなば御慈悲に取りつく御縁なし…………… 六六
- (四十八) 無量永劫助かる心の發りしも此故と思へば病氣も恩龍…………… 七〇
- (四十九) 御名を稱ふれば自づと人格的の尊體を念す…………… 七四
- (五十) 我等が子を念ふ如くに如來は我等子を憐み給ふ親心…………… 七五
- (五十一) 時計の針の斷へ間なく…………… 七九
- (五十二) 宇宙に本然の大道あり…………… 八〇
- (五十三) 如來は宇宙のいのち世のひかり…………… 八二
- (五十四) 亡き子の爲めには母のまことの祈が第一…………… 八八
- (五十五) 樂しき園にて無上のさとり…………… 九一
- (五十六) 死別の悲より心靈を救ふが一大事…………… 九二
- (五十七) 夜もすがら鳴き通す蟲さへあるに稱名の…………… 九三
- (五十八) 頼みても又頼むべき常住不變の天心光中に立脚地を構へて  
 日々の所作を爲す…………… 九六

- (五十九) 花の色もミオヤの訓誠……………100
- (六十) 娑婆八苦の風もミオヤの慈悲の懐には通せず……………101
- (六十一) 道 詠……………105
- (六十二) 照るみすがた……………109
- (六十三) 三身即一のミオヤ即ち南無阿彌陀佛……………111
- (六十四) 我身の無事を祈ること勿れ如何なる事にも不動の心力を與へ給へと祈れ……………115
- (六十五) 光明は之に致一する身心の病を癒す……………117
- (六十六) 衣食憂ふるに足らず如來より賜ふ……………117
- (六十七) 如來様任せにやすく暮す時病も自ら癒へむ……………118
- (六十八) この光ある所極樂世界なり……………118
- (六十九) 煩惱の炎も涼くならむ……………118
- (七十) 一日も一時間も無限の光と壽に充されんやう……………118

- (七十一) 大光明に接觸するが一大事……………一三四
- (七十二) すべての人と共にみすくひを得ん事を……………一三五
- (七十三) 信仰の徳として禍も幸に思ひかゆる……………一三五
- (七十四) 守る條目……………一四一
- (七十五) ねてもさめても知來を憶念し奉る……………一四三
- (七十六) 我心如來様の中に在りや否や……………一四七
- (七十七) 淨土の莊嚴は社會に實現せむ……………一四九
- (七十八) 角が圓くなるまで修行……………一五九
- (七十九) 光明によらざれば其難點は除き難し……………一六〇
- (八十) 現職は大ミオヤより豫て見立て下されしもの……………一六一
- (八十一) 聖名を稱へて聖意の現れを仰ぐ……………一六七
- (八十二) 欠點を誇る人こそ眞の師なり……………一六七

- (八十三) 大ミオヤより來る一大活動寫眞……………一七〇
- (八十四) 其欠點が信仰によりて美點となる……………一七二
- (八十五) 風邪の神を宿すと熱が出るやら咳が出るやら如來様を御宿し  
申すと有り難いやら楽しいやら……………一七四
- (八十六) 斯光宇宙秘密の奥室を啓示す……………一七五
- (八十七) 火微なるに扇ぐ風強ければ火還つて消ゆ……………一七五
- (八十八) いかなる境合にも麗はしき色を……………一七六
- (八十九) 天は笠地は足駄なり……………一七七
- (九十) 十方法界彌陀の懷……………一七九
- (九十一) 精神改造……………一八〇
- (九十二) 等閑に附するもの世に捨てらる……………一八一
- (九十三) 汗と膏より絞り出す歡喜……………一八三
- (九十四) 世の爲に身の苦むが却つて樂……………一八三

- (九十五) 犠牲なしに世を救ふこと成り難し……………一八四
- (九十六) 信念して忘れぬ御頭に彌陀尊は常に在す……………一八四
- (九十七) 大悲の眸を注ぎ給ふ……………一八七
- (九十八) 光明宣傳……………一八八
- (九十九) 米の増收幾百萬石の利となる熱さは難有き賜……………一九〇
- (百) 學園……………一九〇
- (百一) 己が心に欺れて自らさ迷ふ……………一九二
- (百二) ミオヤをミオヤと呼ぶ御互は同胞……………一九三
- (百三) 信心眞實なれば靈驗皆眞實……………一九五
- (百四) 太陽を通じて親様を念す……………一九九
- (百五) 如來は一方より拜めば宇宙に充ち返る智慧と慈愛の光明ばかりなれど又一面より觀すれば萬徳圓滿の麗しきみすがた……………二〇二
- (百六) みむねをうる人は活ける觀世音……………二〇二

- (百七) 心霊實らずば百歳の壽も何の詮…………… 101
- (百八) 休みなしにあせる胸の中…………… 104
- (百九) 地球の一巡りに振り落さるゝもの幾十萬…………… 108
- (百十) 回 向…………… 110
- (百十一) 追 孝 照 鑑…………… 111
- (百十二) ミオヤの源に遡れば切つても切れぬ同胞なり…………… 114
- (百十三) シベリヤも此處も威神の光明中…………… 116
- (百十四) 心霊の金剛石は普通倫理の灰を以ては磨く可からず唯念佛三昧  
の金剛沙のみ能く磨くを得ん…………… 118
- (百十五) 念と云ふ字は二人が一となつたる心…………… 121
- (百十六) 靈的氣候に觸れし内容のうま味…………… 124
- (百十七) 口に稱名意に憶念身に光明的行爲…………… 127
- (百十八) 一塵の我身も心てふ不思議の我を以て全宇宙に等しき我…………… 129

- (百十九) 臭氣を放つて蠅を聚むる必要なし……………二三一
- (百二十) 御慈悲の火の種を名號の中からうけて口稱の風で扇ぐ時光明が心に漸次に燃え付く……………二二三
- (百二十一) 切つても切れぬ親子の三縁……………二二五
- (百二十二) 人々の心の病を癒したいのが愚禰の病……………二二七
- (百二十三) 精神の奥底に永遠に活る靈性あり……………二二九
- (百二十四) 一切有爲法の奥底に絶對無限の大光明者大壽者在す……………二四二
- (百二十五) 人間の里親に預けられし如來の御子……………二四三
- (百二十六) 慈悲の光……………二四六
- (百二十七) 心をみむねにとけこみて……………二四六
- (百二十八) すべてを捧げて御頼申せば大ミオヤは必ず宜きに計らひ下さる 一四九
- (百二十九) 口に念佛の空氣が通はぬと念の火力が弱ります……………二五一
- (百三十) 業障……………二五三

- (百三十一) 如來様を親玉とした一連の珠數……………二五五
- (百三十二) 一切の魔事は光明の缺けたる所に發す……………三五七
- (百三十三) 本家に還る……………二六〇
- (百三十四) 經……………二六五
- (百三十五) 身をミオヤにさゝげてしまへ……………二六五
- (百三十六) 隱德をつみてこそ身にとくはついてくる……………二六六
- (百三十七) みめぐみ……………二六八
- (百三十八) 其不自由が此土に極樂を實現す……………二六九
- (百三十九) 困難する程其功多し……………二七〇
- (百四十) より熱き信念だにあらば寒さは物の數かは……………二七一
- (百四十一) 安樂を貪りて一生空く過す人は人生を無視するもの……………二七二
- (百四十二) 身心清淨なるをうる時洗ひ去る如くに其病は治す……………二七三

- (百四十三) 荒祇にかくれば早く鑄がとれる……………二七四
- (百四十四) 紫衣金襴をきらめかして死體の垢書め……………二七五
- (百四十五) 佛教を家庭に活用せしむ……………二七六
- (百四十六) 大切に……………二七七
- (百四十七) 闇……………二七八
- (百四十八) 日々の作業悉く佛行……………二七九
- (百四十九) 宗教革命は必ず來る……………二八〇
- (百五十) 法を施さずして衣食する僧は負債を擔ふて餓鬼道に落つ……………二八一
- (百五十一) 自ら火を點せずして他の蠟燭に傳ふべからず……………二八二
- (百五十二) 種を蒔け……………二八三
- (百五十三) 禮拜式の意が光明元祖の主義……………二八四
- (百五十四) 人の業識を本とせば十方億土の西方に到るも亦人界なり……………二八五

- (百五十五) 物を苦にし腹を立て……………二九五
- (百五十六) 五欲の境には通宵ねむらず修行にのぞむ時は半時にもあ  
くびす……………二九六
- (百五十七) 大ミオヤの思召を縁ある人に知らせるのが報佛恩のつとめ……………三〇〇
- (百五十八) 光明を稱へて……………三〇一
- (百五十九) 目前の塵埃……………三〇一
- (百六十) 取りまとまりし事もなき一生……………三〇二
- (百六十一) 三昧發得を期せられたし……………三〇四
- (百六十二) 浮き世の浪風は是非もなし……………三〇六
- (百六十三) 十二の光明晝十二時夜十二時休なく照し給ふ……………三〇七
- (百六十四) 思ひかへれば苦も却つて樂となる……………三〇八
- (百六十五) 日々を空しく暮さぬやう……………三二〇
- (百六十六) 北海の濱に釣をたれて武王てう魚をまつダイさんの如く……………三二〇

- (百六十七) 已に佛に献せし身……………三三二
- (百六十八) 三昧に入れ……………三三三
- (百六十九) 御慈悲の厚きには寒きをも覺えず……………三三三
- (百七十) 光明を以て國民を救へ……………三四
- (百七十一) 體がぬければ直ちに蓮華藏世界……………三五
- (百七十二) 悦びも悲しみも夢のほど……………三六
- (百七十三) 下らない事を考へる程下らない事はない……………三七
- (百七十四) 感謝の日暮し……………三七
- (百七十五) 法の子をもつ女となりし事なれば……………三八
- (百七十六) 早く朝のしのゝめとなりて光明の日暮しに……………三八
- (百七十七) 道 詠……………三九
- (百七十八) 内にみてるミオヤの慈悲を一々の言語動作に現はして……………三三二

- (百七十九) この一紙三ヶ所にて漸く認め候……………三三五
- (百八十) いつも忘念の爲に敗戦となり……………三三五
- (百八十一) すくひ下さる辱さに報ひ奉らん爲に一生懸命に御仕へ申上るやう三三六
- (百八十二) 家庭佛教……………三三八
- (百八十三) 如來の愛我に在りて活けるなり……………三四〇
- (百八十四) 愛戀の情深く至誠の意堅からば聖靈交感などか疑はん……………三四三
- (百八十五) 光明の中に價値ある生活……………三四六
- (百八十六) 病軀をつかひ奉るを得し御蔭……………三四七
- (百八十七) 體は病るも心靈は安かれよ……………三四八
- (百八十八) 休む事無しにこの病人を使ひ下さることの辱さよ……………三四八
- (百八十九) 遠大なる望……………三四八
- (百九十) 一念佛にあれば一念の佛念々佛をやどせば念々の佛……………三五〇

- (百九十一) 四智圓明の月……………三五
- (百九十二) 怨執と云ふべき人に對しても少しも異なることなく……………三五
- (百九十三) 精神の共進……………三五
- (百九十四) 御なさけ……………三五
- (百九十五) 世尊に倣ひて……………三六
- (百九十六) 衆生心水澄みぬれば佛日のかげ宿る……………三五
- (百九十七) 親の心……………三五
- (百九十八) 妙用不測……………三五
- (百九十九) 靈 化……………三五
- (二 百) 光 陰……………三六
- (二百一) 咲かせずに捨て置くは惜しい花……………三六
- (二百二) 人生の行路……………三六

- (二百三) 暑さより精神が一層強からばあつさを生ずべきいはれなし…………… 三六一
- (二百四) 寒風身にしみるも御慈悲の懐はいつでも暖し…………… 三六一
- (二百五) 忙はしなき中に有り難さはすきまなく…………… 三六一
- (二百六) 奉 仕…………… 三六一
- (二百七) 大ミオヤの御保護…………… 三六九
- (二百八) 此世は大ミオヤの在す常樂世界に騰進すべき豫備科の學校  
の如きもの…………… 三七〇
- (二百九) 此大鐵關を開くの妙鍵は即ち十二光名…………… 三七二
- (二百十) 如來の光明には現在と未來との隔てなし…………… 三七五
- (二百十一) 拜 禮…………… 三七七
- (二百十二) 行は念佛の一行にあり解は十二の光明による…………… 三七八
- (二百十三) 千手觀音菩薩に倣うてはたらき…………… 三八一
- (二百十四) 光明主義の豫言者…………… 三八三

- (二百十五) 身の垢心の垢……………三九七
- (二百十六) 一蓮托生……………三九九
- (二百十七) 山水流音も七菩提分の音かときゝなす……………三九〇
- (二百十八) 眞實と方便……………三九二
- (二百十九) 佛陀伽耶鹿野寺拜禮弟子曠却以來の幸と存じ候……………三九六
- (二百二十) 今日も此仕事をば如來様より仰付けられたるものとおもひて……………三九七
- (二百二十一) 肉體の糧心靈の糧……………三九八
- (二百二十二) 螢ほどの光もなき身より日月にまさる光を放つ身となる……………三九六
- (二百二十三) ふつと心にかゝる雲いでぬるかと思ふと南無といふ聲の心の空には阿彌陀佛の皎月さやかなるおもひ……………四〇〇
- (二百二十四) 聖經和解……………四〇二
- (二百二十五) 行住坐臥心に忘れざる限り彌陀は面前……………四〇七
- (二百二十六) 今日のいのちは全く如來の賜なれば眞心に仕へ奉る……………四一〇

- (二百二十七) みこゝろに任せて…………… 四二
- (二百二十八) 念々不捨…………… 四二
- (二百二十九) みめぐみの中によろこばれん事を…………… 四二
- (二百三十) 心の垢も清らけく…………… 四三
- (二百三十一) 感謝の生活…………… 四四
- (二百三十二) たゞ念佛その外の事は一大事ではありません…………… 四四
- (二百三十三) 後昆の身に再現して世を救ふ…………… 四五
- (二百三十四) 念佛は情にありて理にあらず…………… 四七
- (二百三十五) 光明家庭…………… 四〇
- (二百三十六) 念々彌陀の恩寵に育まれ聲々如來の靈養を被る…………… 四三
- (二百三十七) 彌陀には現世未來の局限あるなし…………… 四三
- (二百三十八) 宗祖御傳は皮相、眞髓は二祖によるべし…………… 四四

(二百三十九)	心にかゝる浮雲もまた月をかざりの因縁ともなる……………	四三七
(二百四十)	心靈全生命か生れ出し其兆候として見佛す……………	四三九
(二百四十一)	光明を獲得せずば人生の恨事……………	四三三
(二百四十二)	相好を見るは人によりては難し光明に接觸するは易し……………	四三五
(二百四十三)	大宇宙の直説法を聞け……………	四三七
(二百四十四)	見不見に局はず如來と共に在るの信念こそ第一義……………	四三八
(二百四十五)	此身今生に度せずんは何れの生を期してか出離の縁あらん……………	四四三
(二百四十六)	發し難き道心……………	四四四
(二百四十七)	御名を呼び上る毎に答へ給ふ……………	四四五
(二百四十八)	唯懺悔如來の大慈悲を仰ぐのみ……………	四四八
(二百四十九)	辨榮病めども彌陀の光明全く時代を救ふ……………	四五〇
(二百五十)	光……………	四五二